

□文献紹介□

中等症以上の化膿性汗腺炎に対する外科療法とアダリムマブの併用の有効性と安全性について

化膿性汗腺炎は毛包を主体とした再発性慢性炎症性疾患であり、患者のQOLを著しく低下させる。進行性病変に対しては外科療法が選択されるが、術後の再発率は最大70%に及ぶため、生物学的製剤等の併用療法も検討されている。しかし、免疫抑制作用を有する薬剤の多くは手術の際は減量や中止を余儀なくされる。そこで、化膿性汗腺炎に対して有効性と忍容性が示され、保険承認されているアダリムマブを外科療法と併用した場合の有効性と安全性の情報が求められていた。

本論文は、中等症以上の化膿性汗腺炎に対して外科療法とアダリムマブを併用した際の有効性および安全性を検討した多施設二重盲検ランダム化比較試験である。外科療法を予定した206名の患者を、アダリムマブ投与群とプラセボ群に1:1でランダムに割り付け、手術の12週前から薬剤投与を開始し、周術期を含め計24週間継続した。

その結果、アダリムマブ投与群では12週、24週時点でのHiSCRの達成率がプラセボ群に比べ有意に高

かった。一方、薬剤投与前に設定された手術部位の表面積については、アダリムマブ投与開始から12週後に再評価した際、両群で有意差は認められなかった。術後の創部感染、合併症、出血などのリスク増加も認められなかった。

本論文は、周術期におけるアダリムマブ使用の安全性が評価されたという点において、臨床的に重要な意義をもつ。一方で、アダリムマブの併用は化膿性汗腺炎に有効であるものの、外科療法の対象となる進行期病変では炎症が比較的乏しく、十分な効果が得られなかった可能性も指摘されている。今後は外科療法との最適な併用療法についてのさらなる検討が望まれる。

Bechara FG, et al : Efficacy and Safety of Adalimumab in Conjunction with Surgery in Moderate to Severe Hidradenitis Suppurativa. JAMA Surgery **156** : 1001-1009, 2021

(慶應義塾大学皮膚科 出塚 拓巳)